



みなみっ子

50号

学校教育目標

自立

協働

創造

令和8年8月10日(月)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

令和8年度 全国学力学習状況調査の結果について

令和8年度の全国学力学習状況調査の結果が公表されました。私たち学校は、国語、算数ともに県平均を上回り、全国水準に迫る状況にあり、これまでの学習の成果が表れています。(経年比較でも大幅に向上しています。)

国語 沖縄県平均を上回り、全国水準に迫る安定した力を発揮しています(概ね全国平均)。標準偏差が2.8と低く極端に遅れている児童が少ない状況です。しかしながら一部には正答数が5問以下(全13問)の児童もいる状況でもあります。

算数 沖縄県平均を上回り、全国水準へはあと1問の底上げが鍵となります。(概ね全国平均)しかし、全16問中、正答数5問以下の児童が35%もいる状況であり、国語と違って得点にばらつきがある状況です。授業改善とあわせて個別の補充学習を実施します。

標準偏差とは、ひとことで言うと「データのバラつき具合を表す数値」です。たとえば「平均点70点」のテストですが、同じ「平均70点」のクラスでも、標準偏差を比べるとクラスの状況が全く違うことがわかります。

Aクラス(標準偏差が「小さい」=約5)

みんなが65点~75点あたりに集中している状態。みんな同じくらいの学力(バラつきが小さい)

Bクラス(標準偏差が「大きい」=約20)

100点近い人もいれば、30点以下の人も多く散らばっている状態。得意な人と苦手な人の差が激しい(バラつきが大きい)

児童質問の結果

児童質問は全73質問で、基本な生活習慣、家庭での学習習慣・メディア利用、学校や授業に関する意識、自己肯定感・規範意識、読書習慣の調査です。全国学力学習状況調査では、国語や算数の点数に注目しがちですが、児童質問から子どもたちの実態を把握することができる重要な調査です。

規則正しい生活リズム:大里南小学校の児童は、全国や都道府県の平均と比較して、規則正しい生活習慣を維持している傾向があります。

学習習慣と自律的な学習姿勢:平日(月~金)の学習時間は、「30分以上1時間未満」が38.0%で最も多く、次いで「1時間以上2時間未満」が26.3%となっています。全く家庭学習をしない児童もいる状況なので改善を図る必要があります。

自ら学ぶ姿勢:「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫しているか」という問いに対し、約79.6%の児童が肯定的に回答しており、主体的に学習に取り組む姿勢が見て取れます。

振り返りの習慣:学習内容を見直し、次の学習につなげようとする意識も高く、82.4%の児童が肯定的な回答をしています

ICTの活用とメディア利用 SNS・動画視聴時間:普段、**スマートフォンやタブレット等でSNSや動画視聴を「3時間以上」行っている児童は合計で34.3%(4時間以上:19.0%、3時間以上4時間未満:15.3%)存在します。**一方、1時間未満の児童も約26%程度います

読書習慣の課題:1日あたりの読書時間について、「全くしない」と回答した児童が19.0%もいます。学校図書館への訪問頻度についても、31.4%の児童が「ほとんど行かない」と回答しており、読書習慣の定着には個人差があることが伺えます

規則正しい生活習慣と高い道德意識



86.1%

毎日朝食を食べている
全国平均(83.1%)を上回り、良
好な生活習慣が維持されています。



85.4%

いじめはいかなる
理由でもいけない
強い規範意識を持ち、他者を尊重
する姿勢が顕著に表れています。

80%+

学校に行くの
が楽しい

肯定的な回答(「当ては
まる」「どちらかといえば当ては
まる」)が大多数を占めます。

学習に対する前向きな姿勢と自信



国 87.6%
算 85.4%

授業の内容がよく分かる
全国の肯定回答(66.5%)を大き
く上回り、学習理解への高い自信が
見られます。



87.5%

自分にはよいところがある
自己肯定感を示す指標で、全国平均
85.6%を超える数値



国 85.4%
算 80.3%

将来、社会に出たときに役に立つ
国語などの学習内容が将来の生活に
繋がると、多くの児童が考えています。

